



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2008

12月25日号

112
VOL.

発行所 社団法人 福島県放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024 (559) 1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

初心忘るべからず



副会長 齋藤 康雄

師走になると慌ただしくなるのは毎年のことであるが、年々、年末という独特の雰囲気は薄らいでいると感じるのは私だけだろうか。世の中、節が無くなって盆も正月も昔の様相とは変わり、メリハリが無く一年中同じようなリズムで忙しく流れている。そして季節さえも温暖化の影響なのか、冬は春らしくなり、夏は秋らしくなっているようにも思える。

さて、我が技師会であるが、日本放射線技師会の会長が今年度から変わり、徐々にではあるが見直されているものもある。生涯学習システムは、平成20年度が完成年度として位置づけられ、21年度からは会員の声が反映された形で一部変更されて運用が始まることは、ネットワークナウ等でご存じのことと思われるが、より現場の実態に合った変更がなされ、当然のことではあるが社会活動のカウントとして県技師会主催のイベントも認められるようになるなど、各資格認定の更新ポイント取得の内容も変更された。

「資格認定は取得したが更新はしない」という声をよく聞く。何はともあれ、日曜も休まずに習得した努力の証として認定された資格は、今後も維持し続けるべきではないかと考える。資格を持っていることそれ自体は、今のところその資格がなければ出来ないなどということはない。技師会との関わりの中で職場で生かせるものがあるとするならば、そこで学んだ知識であるし、もって社会に貢献するノウハウだろう。皆さんが学んだ知識は、臨床実習指導教員であれば、人材育成と業務管理に、放射線機器管理士・放射線管理士は施設の管理運営に、医用画像情報管理士はRIS、HISを始めとする病院のIT化に、医療の質と安全、そして効率化と、今求められる需要に対応できるだけの内容を含んでいる。病院の中堅的な立場にいる放射線技師は、それらに関わらなければならない。今こそその要求に応えるべきである。

学習は、最初はだれでもそれなりに緊張感を持ちながらやる気を出して取り組む。だが、先が見えてきて意味のないことかも知れないと思い始めるとやる気も失い継続し難くなる。そういう思いにさせるのはそれらを取り仕切る組織にも責任があるかも知れないが、持続できない個人の意識にも原因があるような気がする。

来年は、新公益法人認定取得の対応、福島県放射線技師会の役員改選など大きな節目の年になりそうだ。会員のみなさんが、初心を忘れないで積極的に活動されることを願って止まない。

平成20年度 第2回理事会議事録(抄)

日 時 平成20年11月2日(日) 17時00分～

場 所 県立医大病院放射線部カンファランス室

出席者(会長)片倉俊彦(副会長)斉藤康雄、鈴木憲二、
(理事)斉藤重雄、八巻昭一、吉田豊、白川義廣、
今野英麻呂、馬場栄二、佐藤政春、長川正良、
古川義一、新里昌一、(監事)嶋田峻二
(事務局)伊藤陸郎、村上克彦

議 題

1、平成20年度事業進捗状況

1) 委員会報告

- 学術委員会より学術大会、講習会、研修会等の活動報告があり承認された。
- 総務より学術大会、健康祭り等の会場設置で参加された会員には、本年度より実労働時間に対して最低賃金制度を取り入れてお支払いしますので責任者は申請して下さい。
- その他各種委員会も事業計画書によって概ね順調に実施されている報告があった。

2) 平成20年度北関東地域学術大会報告

- 平成20年10月4日(日)に会長が参加した報告及び当日北村日放会長と懇談会が開催された要旨の報告がなされた。
- (生涯教育システム、各種指導者更新、総会予算書ミス、代議員選出基準、総会審議時間の延長、公益法人申請)

3) 平成20年度東北地域連絡協議会および地域会長会議報告

平成20年11月1日(土)

- 各県及び東北地域の事業報告
- 平成21年度地域学術大会を技術学会東北部会と合同開催できるよう申し入れる

4) 公益社団法人認可申請に向けた定款改正について

- 定款原案を出席者全員でチェックして草案を作成した。

2、その他

- 会長より日放の教育センター取扱について理事会報告があった。センターがある鈴鹿市は交通状況もあり利用率が悪く固定資産税642万円と建物のランニングコスト500万円が財政を圧迫しているので鈴鹿

医療科学大学に無償譲渡することに決議された。

- 日放21年度の事業要望があれば11月末日まで片倉会長へ申し出て下さい。

- 日放永年勤続30年表彰の福島県会員の対象者は16名中1名辞退。

- 第4回メディカルクリエーションに共催しますので参加協力して下さい。

- 県南支部PCの備品購入が承認された。

- 会費未納会員の退会及び再入会の取扱について審議された。

- 21年度県技師会総会は県北支部担当。詳細は12月の県北支部会で打ち合わせされる。

以上で議事を終了し19時20分閉会した。

平成20年度自治体病院学会開催される

平成20年度の自治体病院学会が平成20年11月8日(土)にいわき市の保健福祉センターで開催された。

昨年度はリハビリ部会を除き専門部会合同で開催されたこの学会であるが、今年度はリハビリ部会を含め、医学、看護、事務、臨床検査、放射線、薬剤、栄養の8部会が一同に揃い互いの研究発表に耳を傾けた。

放射線部会も公立藤田と磐城共立から合わせて2題の研究発表があり、八巻浜通り支部長が座長を務め日頃の成果を披露した。



他部門の研究発表を聞く機会はあまりないので、内容の理解は不十分でも非常に新鮮で興味深いものだった。

ランチョンセミナーでは「静脈血栓塞栓症の診断・治療・予防」と題して福島県立医大の佐戸川弘之先生のお話があり、さらに2題組まれた特別講演では「医療紛争とその対応」と題してリョマホ法律事務所の弁護士岡田隆志先生と、「新型インフルエンザ」と題して東北大学医学系医科学専攻の病理病態



学講座微生物学分野教授の押谷仁先生からお話を伺った、いずれも興味深い内容で熱心に聴講していた。

放射線技師の参加は少なかったが、全体では200名を超える参加があり、懇親会に会場を移し遅くまで盛り上がっていた。

平成20年度 福島県放射線技師学術大会開催される

平成20年11月2日福島県放射線技師学術大会が福島県立医大講堂で開催された。

片倉会長の挨拶の後、平成19年度の学術奨励賞の授賞式が行われ、「3.0T MRIにおける乳腺拡散強調画像の検討」北福島医療センター画像センターの兎内遥さんと、「救急時における肩胛骨仰臥位側面撮影の検討」福島赤十字病院の国島やよいさんの両氏に贈られた。

今年の演題数は31題で、幅広い分野からの発表があったが、特に放射線治療が白河厚生や太田西ノ内を中心に6題と例年になく多く、熱気が感じられた。



ランチョンセミナーとしての講演は、北海道社会保険病院の山口孝義先生による「心臓CTを成功させるための基礎知識」と題しての講演であった。

CTの高性能化に伴い、多くの施設で行われるようになった心臓CTであるが、期待したような画像にならないことも経験する。

今回の講演では冠状動脈CTの基礎的な事から臨床応用まで丁寧に解説して頂いた、少しの工夫や考え方を整理し、検査全体の理解を深めることで画質の向上につながる事が理解でき、明日からでも使える有意義な内容であった。

午後はMRI、RI、一般撮影等の演題が続き、今年度の精度管理委員会のアンケート調査報告は、放射線機器管理における始業点検とメンテナンスの実態調査であった。

始業点検を行っている施設が意外と多く感じたが、業者によるメンテナンスはCT、MRI等の大型機器のみで、一般撮影等はほとんど実施されていない現状であった。事故防止のためにも技師が果たす機器管理の役割は大きいと感じた。



今年の参加者は180名と例年よりも多く、最後まで熱心に発表に耳を傾けていた。

開催にご尽力いただいた学術委員会の皆様、福島医大の皆様、本当にご苦勞様でした。

(八巻)

支部・便り

県北支部

「福島市マンモグラフィー併用検診読影会」の報告

7月9日より毎週水曜日、福島市保健福祉センターにおいて開催されていた「福島市マンモグラフィー併用検診読影会」が12月3日まで行われ今年度は終了しました。今年度の福島市の一次健診受診者は5612名で昨年度より約900名減でした。検診終了時期に受診者が殺到するようで、各施設でお断りしなければならないようです。今年で4年目となるこの読影会には、毎回10名以上の技師が参加し、最近では特に女性の方が多くみられるようになりました。読影会終了後には、担当技師が中心となり、要精検になった写真のカテゴリー判定確認や、提出されたフィルムの評価等を行っていた。より情報量の多い臨床画像を提供する為に、日頃感じている疑問点などを討議しあいながら、皆真剣に取り組んでいるようでした。

(池田)

第7回MRI県北地区勉強会開催される

平成20年11月26日、福島県立医大病院において「第7回福島県MRI技術研究会県北地区勉強会」が開催された。今回は3名の技師が発表し、それぞれの話題で大変活発な意見が交わされる勉強会となった。

福島日赤病院の阿部直人さんは「早期アルツハイマー型痴呆診断支援システム VSRADの使用経験」について、実際の撮像に基づいた体験談を詳しく話し、福島県立医大病院の池田正光さんは「呼吸同期・体動補正の技術について」発表をおこない、それぞれ原理から実際の撮像における留意点などまで幅広い話を提供した。北福島医療センターの丹治一さんは「推奨される乳腺撮像プランとACRBI-RADS診断基準」について発表をおこない、これからのMRIの撮像について推奨されるプランについてホットな話題を提供した。

その後、発表された3題の話題に関するフィルムやレポートを用いディスカッションが行われ、各々の病院の撮像ポイントなどについて様々な情報交換が行われた。非常に短い時間だったが、各病院の熱心な技術向上の姿勢が伺える勉強会となった。

(金澤)

浜通支部

いわき地区画像研究会より新年会のお知らせ

今年1月より新年の恒例行事となつたいわき地区画像研究会新年会を平成21年1月16日(金)、開始時間は未定ではありますが、内郷の報徳苑において開催する予定です。

平成20年1月18日に行われた新年会には30名ほどの会員

の参加があり、今回の新年会もより多くの参加を期待しています。また、平成21年2月に行われるいわき地区画像研究会はマンモ認定（技師認定、施設認定）に関する内容を予定していますので会員皆様のご要望等、新年会でお聞かせ頂ければ有難いと思います。

新年会、研究会とも多数の参加を宜しくお願いします。

（鈴木）

県南支部

白河厚生総合病院際開催される

11月2日、3日の両日に白河厚生総合病院で初めての病院祭が開かれました。この日は白河市内で「白河どまん中、食と職の市」と「JA祭り」が同時開催ということもあり、便乗して当院でも病院祭をやってしまえ！ということで「健康で豊かな地域を目指して」テーマとして急遽開催することになりました。

2日は施設見学ツアー、バザー、ミニコンサートを行い、当院放射線科副部長浦部先生による「がんの予防とPET検診について」と題した健康講話や、東北福祉大准教授千葉久也先生による特別講演「最近の子育て事情」が開かれました。講演会の後にはPET検診や院内レストランの食事券が当たる大抽選会もあり、会場は病院とは思えないような盛り上がりでした。



3日は骨密度測定や肌年齢測定等の各種健康チェックにたくさんの方が訪れ、通常の外来と同じような混雑ぶりでした。2日間を通して、看護師や付属保育園の作品を展示したり病院の歴史や新しく放射線科に導入された機器を紹介するパネル展なども行いました。

来院見学者は約1800人。当院で初めての開催であることや準備期間が約1ヶ月という急ピッチで準備した状況から考えると内容・来院者数とも盛況だったと思います。今年は少々真面目な内容でしたので、来年はもっと楽しい企画ができればと思います。放射線科は食べ物関係（焼き鳥・焼きそば・かき氷等）をやりたいですね。他施設の病院祭を見たことがないので、これからは皆さまの病院祭へお邪魔したいと思います。（川上）

県南MRI研究会開催される

11月7日に県南MR研究会が白河市で行われた。通常は郡山市で行われるが、今回は白河厚生総合病院が5月に新築

移転したため、病院見学を兼ねた。参加人数は60名を超え、いつもの1.5倍であった。講演として南東北病院赤石沢さんによる、「3.0Tに於けるEOBの有用性について」の話をさせて頂いた。続いてスライドで放射線部門の紹介をし、自由に1階CT・MRI・PET・Angio・マンモ・一般撮影・X線-TV・骨密度、B1階リニアック・RIを見て貰った。なぜか見学時間内には救急外来の撮影依頼がなく遠慮することなく見て貰うことが出来ました。（北島）

会津支部

第7回会津肝胆膵画像研究会

平成20年12月3日（水）、会津ワシントンホテルにおいて、第7回会津肝胆膵画像研究会が開催されました。この研究会は毎年この時期に行われており、技師のみならず、放射線科医師や消化器医師など多方面からの参加をいただいています。

はじめに、共催していただいた（株）エーザイさんから、Gd造影剤の安全性情報の話題提供として、NSFの発症率や発現リスクなどについて、わかりやすい解説をしていただきました。また、竹田総合病院さんからは、EBO・プリモビストについて、実際の画像を交えながら発表していただき、改めてその有用性の高さについて理解を深めることが出来ました。



今回は特別講演として、自治医科大学消化器・肝臓内科准教授でいらっしゃる玉田喜一先生に「胆膵癌の画像診断とステント療法」と題して、EUSやIDUS用いた胆管癌の鑑別診断や深達度診断の方法とそのコツ、またステントを用いた治療における難しさや現状などについて非常にわかりやすく、かつ丁寧に御講演いただきました。

研究会終了後は、立食式のフリーディスカッションを設けて、今年最後の勉強会を満喫することが出来ました。（森谷）

編集後記

“あっ”という間にもう今年も師走。何かと駆け足の一年であった様な気がします。そろそろ職場では、忘・新年会の時期がやってきます。健康第一で事故には気をつけて、いい一年の締めくくりと新たな新年のスタートとしていきたいですね。（池田）